

資料編

丸亀市総合計画 General Plan of Marugame

◆後期基本計画策定の経過

〈平成22年〉

- 6月16日 第1回総合計画策定本部会
6月18日 市議会議員全員協議会
7月下旬～8月中旬
市民アンケート
●16歳以上、3,000人対象
●回収数1,077票、回収率35.9%
- 11月15日 市議会議員全員協議会
11月16日 第2回総合計画策定本部会
●後期基本計画策定方針の確認
11月18日 第1回総合計画審議会
●市長より諮問
●市民アンケート結果について
●後期基本計画策定方針について

〈平成23年〉

- 1月22日～3月1日
地域別説明会
●コミュニティ17地区において意見
交換
- 1月25日 第2回総合計画審議会
●前期基本計画の評価結果（内部評
価結果）について
- 7月12日 第3回総合計画審議会
●計画策定にかかる基礎調査及び地
域別説明会の結果について
- 8月25日 丸亀中学生未来会議
●中学生（市立7中学校生徒）によ
るワークショップ
- 9月20日 市議会議員全員協議会
11月29日 第4回総合計画審議会
●前期基本計画の評価結果（内部・
外部評価結果）について
- 12月21日 第3回総合計画策定本部会
●後期基本計画の骨格の確認
市議会議員全員協議会

〈平成24年〉

- 1月16日 第4回総合計画策定本部会
●後期基本計画素案の確認
1月24日 第5回総合計画審議会
●後期基本計画素案について
1月27日 市議会議員全員協議会
2月1日～3月2日
パブリックコメント
2月10日 第6回総合計画審議会
●後期基本計画案について
2月15日 市議会議員全員協議会
3月16日 市議会議員全員協議会
3月19日 第5回総合計画策定本部会
●後期基本計画案の確認
第7回総合計画審議会
●市長へ答申
3月22日 後期基本計画の決定

◆諮問書

22企企第153号
平成22年11月18日

諮 問 書

丸亀市総合計画審議会 会長 殿

丸亀市長 新 井 哲 二

丸亀市総合計画後期基本計画（案）について（諮問）

丸亀市総合計画後期基本計画（案）について貴審議会の意見を求めます。

答 申 書

平成24年3月19日

丸亀市長 新 井 哲 二 様

丸亀市総合計画審議会
会長 牛 島 授 公

丸亀市総合計画後期基本計画（案）について（答申）

平成22年11月18日付け22企企第153号をもって諮問のあった「丸亀市総合計画後期基本計画（案）」について、当審議会でも慎重に検討を重ねた結果、本計画案を丸亀市のまちづくりの指針とすることについて、概ね妥当であると認め、ここにその旨を答申します。

なお、合併後5年を経過し、次のステップとなる後期基本計画として、本計画では、定住促進をテーマとする3つの課題を掲げた重点推進プロジェクトを設定し、優先的、重点的に取り組む施策を明確にしています。これに基づき、多くの人から「住みたいまち」「住み続けたいまち」として選ばれる活気のあるまちをめざし、そして、基本構想に掲げる将来像「自然と歴史が調和し 人が輝く田園文化都市」の実現に向けて、次の意見等を踏まえ、本計画を着実に推進されるよう求めます。

1. 自然環境の保全について

多様で豊かな自然環境を維持するには、市民や事業者などの協力と理解、そして何より積極的な参画が不可欠です。循環型社会を構築し、次世代に良好な自然環境が引き継がれるよう、環境に配慮した社会づくりを進めるとともに、市民や事業者などを対象とする幅広い普及啓発に努め、環境施策のリーダーとなる人材育成やネットワークづくりなどに取り組んでいただきたい。

2. 歴史・文化資源の保護と活用について

郷土に対する愛着や誇りを育むうえで、地域特有の歴史的・文化的資源の価値を理解し、大切にすることが重要です。これらの財産を後世に伝えていくための保護を進めるとともに、丸亀市の持つ固有の魅力として、より多くの人に価値が理解され、学習や観光など多方面に活用するよう努めていただきたい。

3. 土地の適正利用について

郊外に集客施設が立地し、都市機能が集約する中心市街地の空洞化が進んで久しいが、まち全体の賑わいづくりを考えたときに市街地の活性化は必須であり、地域住民の意見を取り入れながら、中心市街地の再興に向けた取組について真摯に検討していただきたい。また、耕作放棄地の再利用や空家対策なども、農地保全、土地の有効利用の観点から今後の重要課題として残されており、地域振興策として、離島など市域全体に目を向けて取り組んでいただきたい。

4. 産業振興について

市民アンケート結果に示されているとおり、丸亀市においては産業の振興が大きな課題とされています。農林水産業、商工業、観光業など多分野において連携し、企業誘致も含め地域経済全体の活性化に繋がる取組を強く推進するとともに、それによって雇用が確保され、若い人たちがまちに集い、活力のあるまちがつけられるという波及効果が得られるよう努めていただきたい。

5. 安全安心のまちづくりについて

東日本大震災によって、市民の安全に対する意識は一層高まっています。災害に備えた公共施設の耐震化や改修など、早急にハード面の整備を進める一方で、職員の災害対処能力の向上や、住民による防災体制の確立など、ソフト面の充実を図り、地域が一丸となった危機管理体制の強化に努めていただきたい。また、防犯・交通安全対策などの取組も強化し、安全で安心して日常生活を営めるまちづくりを進めていただきたい。

6. 福祉施策について

少子高齢化が進行し、高齢者の孤立などの社会問題が顕在化するなか、市民一人ひとりが地域福祉の担い手となって、お互いに支え合う、福祉のまちづくりが求められています。高齢者福祉、障がい者福祉、子育て支援、健康づくりなどの各種福祉施策については、地域社会を枠組みとしてそれぞれが連携し、総合的に推進されるよう努めていただきたい。

7. 子育てと教育について

少子化や核家族化が進み、人々の価値観が多様化するなか、地域の結びつきが希薄化しています。安心して子どもを産み育てられることができるよう子育て施策の充実を図るとともに、次代を担う子どもたちが豊かな感性を持ち、健やかに育つように、家庭、学校、地域など関わるものすべてが子どもたちの育ちを支える環境づくりを進めていただきたい。また、小中学校とも連携して、地域における教育力の向上に取り組んでいただきたい。

8. 多様な主体によるまちづくりについて

丸亀市では、従来からおおむね小学校区単位でコミュニティ組織が形成されており、まちづくりの重要な主体として位置づけられています。総合計画に掲げる様々な施策を推進する上でもコミュニティとの連携・協働は不可欠であり、地域住民と深く結びついたまちづくりを今後の大きな課題として捉え、その仕組みづくりに取り組んでいただきたい。また、その一方で、社会的な課題を解決していくためには、NPOなどの市民活動団体による地域の枠を越えた活動が重要であり、その支援に取り組むとともに、高校生などの若い力も生かし、市民一人ひとりがまちづくりに力を発揮できるよう、市民参画の促進を図っていただきたい。

9. 行財政運営と自治体間の連携について

地方分権の進展によって、地域社会の活力と自治体の経営力が問われる時代を迎えています。丸亀市の財政状況は、前期基本計画の策定当初に比べ健全化の方向に進んでいますが、市の将来を見据えて、さらに強固な基盤を築いていく一方で、必要な施策へは財政制度を効率的に活用しつつ、積極的な財源の投入を図っていただきたい。また、定住自立圏構想の推進にあたっては、中讃地域の中核的役割を担う都市として、十分なリーダーシップを発揮していただきたい。

◆総合計画審議会委員

役 職	氏 名	所属等（委員委嘱当時）
会 長	牛 島 授 公	香川大学大学院 地域マネジメント研究科 教授
(会 長)	(田 中 豊)	香川大学大学院 地域マネジメント研究科 教授
副会長	橘 節 哉	丸亀商工会議所 会頭
委 員	板 倉 真	四国職業能力開発大学校 住居環境科 准教授
	岩 崎 晶 典	丸亀市身体障害者福祉連合協会 事務局長
	岩 田 理 香	丸亀市PTA連絡協議会 副会長
	臼 杵 實	公募
	内 田 俊 英	丸亀市議会議員
	大 倉 祐 紀	四国職業能力開発大学校 学生
	奥 村 素 一	丸亀市連合自治会 副会長
	小 野 健 一	丸亀市議会議員
	片 山 圭 之	丸亀市議会議員
	北 風 智 恵 実	公募
	金 永 子	四国学院大学 社会福祉学部長
	佐 野 一 樹	香川大学大学院 学生
	篠 塚 智 枝 子	丸亀市民生委員児童委員協議会連合会 理事
	砂 古 敏 之	香川県農業協同組合 丸亀支店長
	林 毅	公募
早 馬 倫 代	公募	
藤 田 登 茂 子	丸亀市老人クラブ連合会 副会長	
宮 本 喜 美 代	丸亀市母子愛育班連絡協議会 会長	

委員50音順・（ ）は前任

◆丸亀中学生未来会議

丸亀市総合計画後期基本計画の策定作業の一環として、平成23年8月25日に、市内の中学生が将来のまちづくりなどについて話し合う、丸亀中学生未来会議を実施しました。

会議には、市立中学校7校から計25名が参加して、ワークショップ形式で様々な意見を出し合いました。

その概要は以下のとおりです。

1. ワークショップの内容

①各班で模造紙に所定の枠をつくり、それぞれ「伸ばすべきところ」、「変えたいところ」、「やるべきこと」、「将来像」というタイトルを書き込む。



②「伸ばすべきところ」と「変えたいところ」について、1人ずつポストイットカードに記入し（1人5枚程度）、模造紙の所定の枠に貼り付ける。



③類似したものを揃えて一定のグループに区分し、内容を踏まえて、今後「やるべきこと」をポストイットカードに記入し、所定の枠に貼り付ける。



④模造紙に整理した内容から、どんなまちになるか（したいか）を「将来像」の枠に1つだけ記入する。

模造紙のイメージ

伸ばすべきところ	変えたいところ	やるべきこと

2. 意見のとりまとめ ～わがまちの将来像について～

ワークショップでは、参加者が日頃から感じている丸亀の「伸ばすべきところ」と「変えたいところ」を挙げてもらい、そこから「やるべきこと」を考え、「丸亀をどのようなまちにしていきたいか」という将来像を描いてもらいました。

丸亀市総合計画の基本構想にある『自然と歴史が調和し 人が輝く田園文化都市』という将来像も参考に、中学生の視点から描いた将来像は、以下のとおりです。

基本構想と同じように、丸亀の豊かな『自然』、丸亀にいきづく『歴史』や『文化』という言葉が多く使われています。

また、新たなキーワードとして、『安心』『安全』という言葉が多く使われていました。

【A グループの将来像】

- 全国に誇れるものがたくさんある平和都市
- 風景にとけ込んだ、見所満載な都市
- 快適かつ緑あふれる緑化都市

【B グループの将来像】

- 自然に生み出された伝統をより進化させてゆく都市

【C グループの将来像】

- 緑豊かな明るい丸亀市
- 「また行きたい」そう思える観光地
- 人と環境に優しく、安全エコで、自然豊かな安心エコ都市
- 100年後、今とかわらぬ町並を
- 安全で楽しい町
- 安全でクリーンな町並にし、観光名所には県外からもたくさんの方が来る
丸亀市 → 自然文化が豊富な丸亀市
- 安心・安全 昔ながらの城下町
- イベント沢山 自然がいっぱい 文化が“よっけ” 城下町
- 自然に恵まれ文化も豊富な丸亀市

【D グループの将来像】

- 『自然』が『豊か』で、みんなが『わきあいあい』としている町
- 今と昔の共生している町
- 人と自然が共生し、歴史と文化を受け継ぐ町
- 交通整備が整っており、みんなが『安全・安心』に暮らせる町
- 町と緑が結びつき、皆が笑える田舎町
- 『明朗』の笑顔 『平和』の絆 『喜動』のエネルギー
- 4つの『連』 連帯 連携 連動 連合
この4つの『連』で試練の時代を生き抜け！！

丸亀市総合計画後期基本計画
～自然と歴史が調和し 人が輝く田園文化都市～

編集・発行

丸亀市企画財政部政策課

〒763-8501

丸亀市大手町二丁目3番1号

電 話 0877-24-8839

U R L <http://www.city.marugame.lg.jp>

E-mail seisaku-k@city.marugame.lg.jp



**MARUGAME
CITY**

